



「地球のステージ」とは・・・

山形で精神科医をしている桑山紀彦さんが案内役。50カ国以上の国を回り、国際医療救済活動を行ってきた集大成として、音楽と大画面の映像を通して、私たちに感動を与えてくれる新しいコンサート形式のステージです。

生駒フォーラム 15周年企画

わいわい！ガヤガヤ！ わいわい！ガヤガヤ！



第1部

【市民わいわいまつり】

午後5時から 2階会議室・入場無料
風船で遊ぼう！バルーンアートやチョコQ、地元の野菜、国際交流グループによる民芸品（南米・中国・韓国など）、NPO、市民グループ、介護・障害者福祉団体などのブースがあります。みんなきてね！

第2部【地球のステージ】

午後7時から 1階市民ホール・入場500円
大切なことを忘れないために・・・
世界で起きている様々な出来事を「映像」と「音楽」と「歌声」に乗せて「つたえる」

出会った世界の子ども達の「輝く笑顔」



カンボジア

ユーゴスラビア

フィリピン

ソマリア

イラク



No. 86

発行責任者 山本 保

事務局 東新町2-10
市民オフィス内
TEL. 71-7700
FAX. 71-7800

http://www.1kcn.ne.jp/forum/
E-mail: forum@kcn.ne.jp

- 市民ネットワークをめざそう！
- 情報公開・政治倫理の確立で、市民参加の開かれた市政をめざそう
- 環境・教育・福祉・学研バイオ研究に関してのご意見をお寄せ下さい

このまちをさぐるのは「私たち」

皆さんに支えられ

生駒フォーラムは一五周年を迎えました！

生駒フォーラムは、今年で八六号発行、一五周年発行し続けてきました。

この間、市民情報誌として市民の活動や生駒の課題を伝えるとともに、市民が創るまちづくりシンポ、市民生活相談、市民農園、NPOあぐり設立、竹炭窯、しし座流星群観察、行基の足跡を訪ねるツアー、市民ハイキング、ホテル観察会、子どもたちとイモ掘り、マンションネットワークの設立、国勢調査学習会、地酒発見、介護を考える集いなど、身近な課題がテーマの企画にとり組み、市民自治をめざしてきました。

いま生駒は変わりつつあります。

これからの生駒の市民自治をより確かなものにするためには単に一過性の変化ではなく、着実に市民自治の仕組みをつくっていかなくてはなりません。これからも生駒フォーラムは情報公開、市民参加、市民活動・NPOへの課題に取り組み続けていきます。

一五周年を迎え、多くのみなさんと交流を深めていく企画として、「市民わいわいまつり&地球のステージ」を開催いたします。ぜひとも多くの皆さんのご参加をお願いいたします。

生駒フォーラム編集長

奈良県議会議員 高柳 忠夫

市民わいわいまつり会場 (セイセイビル2階)

販売コーナー (205号室)

展示コーナー (オープンギャラリ)

エレベーター

ブースあんない



こんなお店があります！

恒例！

朝市・秋の収穫祭！

11月12日(日) 午前八時～アントレ広場にて

連合生駒市地協・NPOあぐり共催

今年も地元産のおいしい野菜がいっぱい！

今回は、大根、丸大根、かぶら、にんじん、さつまいも、こいも、チンゲンサイ、ねぎ、ほうれん草、きく菜、小松菜、水菜、なすび、ピーマン、とうがらしなど、たくさんのおいしい新鮮な野菜が並びます。ぜひお越しください！

地元産・南田原産のお米…予約受け付け中です！

好評の南田原産のおいしいお米、共同購入を引き続き受け付けます。ご希望の方は、早めに
お申し込み下さい。
七九二二六九七 (西田さん)
七一一七〇〇 (生駒フォーラム)

賢く、しごとく生きのびよう

九月二四日、障害者自立支援法による新体系への移行を前に「やっばりあかんで！自立支援法 共に生きるまち生駒をつくる学習会」を開催しました。今回はその学習会で報告いただいた知的障害者授産施設・ひまわりの家の渡辺哲久さんに寄稿いただきました。

障害者自立支援法による新体系の移行を前に、障害程度区分認定調査の結果が、ほぼ出てきたが、市町村間の格差が激しい。

知的障害、精神障害、視覚障害の重複の人で区分三という判定が出た人がいる。知的障害は重度である。通院だけで国庫負担基準額（国が補助金を出す上限）を越えてしまう。家事援助で暮らしを支えてきたが、その支給決定ができない。

自立支援法では、障害程度認定区分ごとに国庫負担基準額（上限額）が決められているので、実際より低い障害程度区分が出た場合、市町村の負担が増える仕組みになっている。

市町村はこのこと熟知していないと国にぼろくそにされる。わたしは、当事者も市町村も、賢く生きのびていこうと呼びかけている。

第一に、暮らしに必要な最低限のサービス量は、国事業で確保すること。

実際の支援の必要量が、その人の「障害程度」であるはずである。正しい障害程度区分認定をして、居宅介護の支給量を確認する。日帰りショートステイ



の廃止を日中一時支援に振るのではなく、児童デイサービスを育てていく。デイサービスや無認可作業所の移行先は、地域活動支援センターではなく国の通所事業をめぐらしていく。

第二に、市町村はサービス提供の実績を積み上げていくこと。「移動介護と日帰りショートステイ」が市町村事業へ移行する財源が「統合補助金」。その内示額は、上半期の実績と比べた増減を見てみると奈良県内でも市町村間の格差がびっくりするほど激しい。要するに実績の差である。実績を上げられない市町村は、今後、どんどん国庫補助を切り下げられていく。目先の出費のリスクを恐れて市町村が財布を締めると、結局、自分の首を絞めることになる。

奈良県は県議会の学研特別委員会、都市再生機構が八月八日、生駒市に対し、高山第二工区に関する「照会文書」を出していたことを明らかにしました。

高山第二工区の情報は速やかに明らかにすべき

都市機構が生駒市に質問状！

【照会】

奈良県は県議会の学研特別委員会、都市再生機構が八月八日、生駒市に対し、高山第二工区に関する「照会文書」を出していたことを明らかにしました。

【市、公団三者の基本協定をどうするのか？】

都市機構からの照会文書は二年前に奈良県、生駒市、住都公団（現在の都市再生機構）の三者が結んだ「基本協定」の規定に基づき出されたものです。この「基本協定」は第二工区開発を円滑に進めることを目的に三者の役割、手続き等を定めたものです。

「基本協定」の取り決めを市がどう考えているのか、また、事業に対し市は今後どのような姿勢で臨むのかを改めて確認する質問状と言えます。

都市機構は九月三〇日までに回答を求めています。

【市は九月議会での経過を明らかにせよ】

さて、生駒市は都市機構から照会があったことを九月の市議会では明らかにしませんでした。当然どのような回答をしたのかあるいはしなかったのかも報告されませんでした。

りとりがなぜ、県によって明らかにされたのか。なぜ市は明らかにしないのか、疑問が残ります。

【高山地区の将来構想をどう考えるのか】

市は「事業への協力姿勢を白紙撤回する、中止か縮小か、それを決めるのは事業主体の都市機構だ」との姿勢をとっています。今日の社会状況から判断すれば、二万三〇〇〇人規模の大規模な宅地開発が生駒市に必要なものとは考えられません。

しかし、中止となった場合、広大な跡地をどうするのか、縮小となった場合、市はどのような形で事業に関わるのか、いずれにせよ関係機関との協議が必要であり、それは市の責務です。

さらに高山地区の住民、地権者をはじめ、市民間の合意形成をはかることもまた市の責務です。

【第二工区に関する情報は速やかに明らかにすべき】

その前提として第二工区にかかわる情報は速やかに公開していく姿勢が市に求められます。かつて都市公団に情報公開を求めた訴訟に取り組んだ市長であればこそ、今回の都市機構とのやりとりも速やかに明らかにし、不透明な第二工区の問題解決は、オープンに取り組むことが期待されます。

五反原の里山だより その10



心配しながら農家の方の大変なご努力でなんとか乗り切り稲も黄金色に色づいてきました。子どもたちも稲刈り、脱穀稲刈りには、二二家族、八三名が参加。カマを持つのも初めての子どもたち「足を切らずに稲を切れ」と言いながらお父さん、お母さんのサポートを得て恐る恐る挑戦、次に束ね稲木ほし、その後昔ながらの足ふみ脱穀機での脱穀。唐みを使つての選別と初めての体験に子どもたちは大喜び。

◆みんなで食について考えた農家の方々の大変な苦労でお米は作られることを体験し、子どもたちにも食について今一度考えてもらえるよい機会となりました。収穫量は予想より少なめでしたが子どもたちの初めての体験でのイキイキした笑顔を見ることが大きな収穫だったと思います。

◆初めての田植え 古代米の赤米、黒米も植えることにし、もみ種の準備、田の水入れ、ピニールかけと指導を受けながら進めていきました。苗も順調に成長し、いよいよ田植え。一八家族七〇名が参加。初めての体験で子どもたちはぬかるみ、泥の感触に大喜び、二時間かけて予定を終了、昼食は里山におり、焼肉バーベキューを行ない腹いっぱい。

◆大切な「水管理」 稲作は水の管理が重要ということで農家の方に指導うけながら管理するもなかなか思うようにできず、夏の水不足にも会い

◆生駒里山を守る会 連絡先 七五〇〇八四

